

使うだけで「女性の雇用創出・ゴミ削減・おしゃれ」が叶う。 インドの伝統衣装サリーで作ったワインバッグを販売します 《SDGsに貢献するアップサイクルを、日本に広めたい》

エシカリージャパン合同会社（代表：中川雅里名）は、インドの伝統衣装サリーから作ったワインバッグの販売を5月10日に開始します。この製品はムンバイの工房でインドの女性職人が手作りしたアップサイクル製品です。

貧困層への援助や寄付ではなく、階級差別が根強く残る現地にインド人女性の雇用を創ることがSDGs目標5「ジェンダー平等を実現しよう」目標12「つくる責任つかう責任」の達成に繋がると期待しています。

※アップサイクル = 今あるものを利用して「新たな製品」に作り替え、付加価値を与えること



■商品情報 ブランド名【I was a Sari】（アイ・ワズ・ア・サリー）

サリーをアップサイクルし、ワインバッグに生まれ変わった一点ものです。インド文化の象徴であるサリーの魅力は、日本にはない大胆な色使い・表情豊かなデザイン。同じ色・デザインには出会えない、まさしく一期一会の世界です。価格：3,850円（税込）+送料

公式サイト【EJ the shop】<https://ethically.theshop.jp/>

■サリーのアップサイクルを広め、SDGsに貢献したい



目標5「ジェンダー平等を実現しよう」目標8「働きがいも経済成長も」

→インドでは今も生まれた場所で一生が決まってしまう人が大半であり、下層階級の女性は「家にいるもの」が当然と考えられています。アップサイクルの雇用を創ることで、現在170人の女性が給与を得て医療・教育も受けられています。

目標12「つくる責任つかう責任」

→ファッション業界における大量消費・大量生産の現実を知り、アップサイクルを生活に取り入れる第一歩になります。

目標13「気候変動に具体的な対策を」

→すでに存在するサリー布でワインバッグを作るため、製造（布地の生産や染色）におけるCO2排出量および水使用量を大幅に削減することができます。

■エシカルもおしゃれも叶う

「I was a Sari」は近年関心が高まるSDGsに貢献するだけでなく、日本のデザインにはないインドのエネルギーや多様性、優しさや美しさを体感できる逸品です。

「I was a Sari」を作ることで、インドの女性たちにも自分の人生を生きてほしい。

「I was a Sari」を買うことで、日本の方々にはおしゃれを楽しみながらSDGsの現実を知ってほしい。そう願いながら、世界と日本をエシカルでつなぐことに邁進してまいります。